

ICAO TRAINAIR PLUS プログラムの正会員認証授与

はじめに

航空保安大学校は、ICAO(国際民間航空機関:International Civil Aviation Organization)のトレインエアー・プラス・プログラム(TPP:TRAINAIR PLUS Programme)正会員として認証され、2013年2月15日、大阪府泉佐野市の本校において認証授与式を挙りました。

1. プログラムの概要

航空交通の増加に対応するためには、グローバルな航空交通システムを展開していく必要があります。そして、このシステムを整備、管理、運用できる高度な知識とスキルを有した人材を教育・訓練する必要性が高まってきました。

このため ICAO は、1987 年、国際標準となる高水準な人材育成を支援する TRAINAIR プログラムを立ち上げました。

2011 年には、新たに民間企業の参画を可能とするなど、加盟対象や審査方法を新たな体制へと発展させ、名称を TRAINAIR PLUS プログラムへ変更しました。

この TPP は、ICAO 加盟国の教育機関において、開発者要件、施設要件などの組織体制面及び訓練コース開発方法等で国際的な標準化を図る仕組みです。これにより、標準化・高品質化された研修レベルの確保が可能となり、また国際的な訓練資源の共有もシステム化されることとなりました。



TPP 正会員の認証（左）と盾（右）

2. 航空保安大学校の取り組み

航空保安大学校本校内に TPP へ取り組むための「研修コース開発室(Course Development Unit)」を設けて加入準備を始め、2011年3月、TPP 準会員(Associate Member)の認証を受けました。その後、正会員の必要要件である標準訓練パッケージ(STP:Standardized Training Package)の開発を終えて、TPP 正会員(Full Member)となりました。

2013年1月現在、発展途上国を中心に TPP の準会員と正会員合わせて 36 機関が参加しており、STP の登録は当校が 11 本目、正会員としては世界で 10 番目となりました。

STP とは、ICAO により標準化された手法に基づき作成された教科書その他、授業計画書、使用教材・機材、教官ガイド、進捗状況テスト、評価テストなどの教育・訓練に関わる様々な教材等の集合体で

す。その開発過程では、業務に必要となる知識・技術・態度を抽出し、教材を用いて習得できるよう作成します。

基本的には ICAO の推し進める CBT(Competency Based Training)に合致し、また ISD(Instructional System Design)といった汎用の訓練手法を取り入れています。

なお STP の手法は、航空だけでなく幅広い分野の人材育成に適用可能なものです。ただし STP の作成者には、ICAO で標準化された「コース開発者研修」の受講が必要となります。

3. 授与式



グラハム局長から片岡校長へ渡される正会員認証

TPP 正会員認証の授与式典には、ICAO から航空技術局長(Director, Air Navigation Bureau)であるナンシー・グラハム氏(Mrs. Nancy GRAHAM)にお越し頂きました。

本省からは重田交通管制部長を始め、今回作成した STP の対象職種である辻航空灯火・電気技術室長、仲田航行支援技術高度化企画室長のほか多数の来賓に参列いただきました。

式場に入られるなりグラハム局長は、本省からの来賓と本校教職員、研修生・学生ら合わせて約 120 名を見て驚かれるとともに感激された様子でした。

大勢の見守る和やかな雰囲気の中、グラハム局長から片岡校長へ晴れて TPP 正会員の認証と盾(プレート)を授与頂きました。

片岡校長からの謝辞では、登録 STP が開発した国だけではなく会員相互に利用できること、航空灯火の分野で障害箇所を素早的確に探し出すことのできる画期的な内容であり、外国機関の利用も期待できることなどが紹介されました。

また、さらなる STP の開発や STP を用いた研修の開催などへ向けて新たなスタートをきり、TPP へ積極的に参画していく決意が表明されました。

そして謝辞の終わりには、研修コース開発室 5 人のメンバーが紹介されました。



研修コース開発室のメンバー紹介



重田交通管制部長からの祝辞

重田交通管制部長からは、米国の NEXTGEN、欧州の SESAR、日本の CARATS という新しい航空交通システムの構築によりグローバル化が進んでも高度化したシステムを適切に使い維持・管理する人が介在してこそ空の安全が守られること、そのためには STP というツールを活かした効率的な航空専門家の育成により、我が国だけでなくアジア諸国や国際社会への貢献を目指して頂きたい、との祝辞をいただきました。

研修生・学生らの感想

- TPP 正会員認証授与という貴重な式典に参加することで、国際的に実施されている業務を身近に感じ取ることができ、非常に有意義でした。
- 日本や世界の航空業界という大きな枠組みの中に航空保安大学校の学生である自分達がいるということを認識する良い機会となりました。



グラハム局長を囲んで

4. 基調講演「航空の将来へ向けたパートナーとしての連携」

式典の後、グラハム局長による基調講演(原題:Working Together as Partners Towards the Future of Aviation)が行われました。

世界の航空の事故率を紹介しつつ安全がいかに求められているか、またその中で日本人職員の能力の高さに言及しながら航空先進国に位置づけられる日本の国際貢献に果たす役割への期待を述べられ、アジア諸国における航空の安全への支援を強調されました。

“Safety of the sky is in your hand.”

TPP のターゲットである次世代の専門家＝研修生・学生へのメッセージです。そして、業務に対する意識を高めるだけでなく、航空という西洋文化への慣れが必要とのアドバイスをいただきました。

講演の始めにあたっては研修生・学生のうち「英語が話せる人」に挙手を求められ、英語を使って活躍できる仕事への関心を高めていただきながら、特に「英語力」を養うことへの期待が大きいことも述べられました。

講演後の質疑応答では、控えめな態度の研修生・学生達の中へ分け入って質問を引き出し、真剣に答えていただく姿が印象的でした。

グラハム局長からは、将来全国の空港や航空交通管制部で空の安全を担う、あるいは国際的に活躍する若い世代に「熱い大きな期待」という素晴らしいお土産が手渡されました。



グラハム局長による基調講演
少ないスライドで“思い”を的確に伝達

Q&A → (D):グラハム局長、(S):研修生・学生

Q(S) 航空保安大学校の施設について、どのように感じましたか？

A(D) すばらしいと聞いていたとおり、立派な施設ですね。

Q(S) これから国際的に活躍するには、どのような必要がありますか？

A(D) 英語力が必要です。視野を広く持ち、物事を戦略的に考えることも必要となります。そして、自分をしっかり確立し、情熱をもって取り組むことが大切です。

Q(S) 他国の同様な教育施設期間と比べ航空保安大学校の良いところは？

A(D) 学生が給料を支給されながら勉強している点です。



研修生・学生との質疑応答に臨むグラハム局長

研修生・学生らの感想

- 日本人の語学力の無さと意見を言わない点に言及したことが、とても印象に残っています。
- 航空管制業務はサービス業と強調されていたことが、印象的でした。
- 航空交通は発達異なる様々な国をつなぐ交通手段であり、航空管制の仕事が国際的に重要な役割を果たすものと改めて自覚しました。
- 色々聞いたかったのに質問せず、積極性に欠けてしまい悔まれます。

5. 実習施設の見学及び研修生・学生とのディスカッション

式典・講演に引き続き、管制科・情報科・電子科の各実習施設の見学及び研修生・学生とのディスカッションが行なわれました。

講演では多少控えめだった研修生・学生から積極的に質問が出され、グラハム局長の答えにも日本の若い世代に寄せる大きな期待が溢れ出た、活発なディスカッションが行われました。

Q&A → (D):グラハム局長、(S):研修生・学生

Q(D) 皆は管制官のドラマ放送を見てこの学校へ入ったのですか？ 我々の職場へ入ってくる人は少ないものの、大変魅力的な仕事ができます。

A(S) ドラマ放映の時には既にこの学校にいました。私たち情報職は紹介されませんでしたが、航空職場のドラマ化は非常にうれしく思いました。

Q(S) What is the different from ICAO and FAA to promote in your career?

A(D) FAA では常に上位レベル：航空界における先進国の中での対応を考え、ICAO では下位の引き上げを含めた世界全体の対応を考えています。

<注：キャリアパスの仕組みではなく、対応姿勢の違い、としてのお答え>



情報科第1 飛行場管制実習室



情報科学生とのディスカッション

Q(S) How do you direct many people from various countries as a director?

A(D) いい質問ですね。現在、私の下では140人43カ国45国籍の職員が働いており、その中で様々な文化を学ぼうと思っています。

私自身、アジアやヨーロッパに住んでみて、種々の違い、例えばGW:ゴールデンウィークやChinese Year:中国のお正月など、を知りました。

皆さんは航空界=西洋文化の中で仕事をしていかなければなりません。私はICAOで最初の女性局長ですが、多くの男性にはない女性に特別な能力:本能的に物事を決める能力を活かしたいと思っています。



管制科ターミナルレーダー実習室



管制科研修生とのディスカッション

Q(S) What kind of work was the most difficult in your career?

A(D) 今の重要な仕事は、各国とのコンセンサスをとることです。会議の場を通して各国との合意をとるための調整が、とても難しく大変です。

Q(S) 各国の意見をとりまとめる秘訣は何ですか？

A(D) 私はフランクな人間で、信頼が問題の解決に繋がると考えています。

Q(S) 技術者に必要なものは何ですか？

A(D) 物事をシステムとして、系統立てて理解することが必要です。

Q(S) ストレスをどの様に発散していますか？

A(D) 週に1日は仕事の事を全く考えない日を設けています。

Q(S) 管理職に必要なものは何ですか？

A(D) 部下が最大限能力を発揮できる環境と、たまのユーモアも必要です。



電子科監視システム実習室



電子科学生とのディスカッション

研修生・学生らの感想

- 現場でも主体性を持って行動していくことの大切さを認識しました。
- 質問への真摯な対応など、将来を支える人材への熱い想いを感じました。

- 日本の管制官という内向的な思考ではなく、文字通り空は繋がっているという意識で広い視野を培っていくことが求められていると感じました。
- 国際機関で働くには、様々な考えを知り、尊重する姿勢やしっかりとした意見を持って発信することが大事なのだと同じ、海外で活躍するならば今から集団生活の中で鍛えておく必要があると感じました。
- 女性研修生に「女性は男性の2倍努力しなければならない」と話されていました。われわれ男性も負けてはいられません。
- 自分の英語をしっかりと聞いてくれて、嬉しかった。
- 研修生に直接話しかけ、1対1の意思疎通を大事にされていました。

おわりに

航空保安大学校では、TPP 正会員の認証を機に STP という新たな教材を獲得しました。今後は、国内の航空保安職員研修へ導入していくとともに、外国人向け研修の開催にも積極的に取り組んでいくこととしています。

なお、ICAO TPP 正会員の認証盾は、本校1階玄関ホールにレプリカを飾っています。



JICA 飛行方式(RNAV)経路設計の研修生達と

★ 開発 STP の紹介 ⇒ [ICAO STP の紹介ページへ](#)

登録 STP 番号:104/011/AGA/MTC_LIGHT

タイトル:「Locating a Ground Fault in an airfield Lighting System」

(邦題: 航空灯火回路の絶縁低下箇所探索法)

内容: 飛行場の航空灯火において回路の絶縁低下トラブル(漏電)箇所を探索する方法(座学、実技)を3日間の研修で習得させる。

なお従来方式に比べ、探索に要する時間と労力を1/5~1/10へ格段に少なくすることができ、作業の大幅な効率化を図ることが可能となる。

汎用性の高い方法であることから、世界中の飛行場での活用が期待される。

- 成果品:ビデオ 25分、英文テキスト 120 ページ、プレゼン資料(パワーポイント)260枚、など



ICAO TRAINAIR PLUS プログラム HP

<http://www.icao.int/safety/TrainairPlus/Pages/default.aspx>

※ TRAINAIR PLUS Newsletter #4 (April 2013) に日本での授与式が掲載されています。